

時化と鮮魚介類の需要（10）

今回は、真の需要者（召し上がる）の方々に「確実に引いてもらう」ために、どのような準備が必要なのか「あるべき姿＝何に」を4点列記した。今回は、変化の3要素「何を」「何に」「どうやって」の内、3点目の「どうやって」について述べる。

◇「バッファ」の設置：「バッファ」とは「物理的な急激な変化・変動を緩和・吸収する緩衝器」と定義される。具体的には、日々大きなバラツキがある「漁獲種・量」をある程度一定にする役割と、一方、同じく日々大きなバラツキがある「真の需要」に確度のある「供給」が可能となり得る状態にする役割を同時に叶える機能を構築しようとの考え。

一旦陸（おか）に揚げられた鮮魚介類は足が早く、冷凍可能なもの以外は、「在庫」の概念はない。つまり、需要があっても無いものは売れない（機会損失）し、売れ残れば、その行く末は廃棄（機会損失）しかない。つまり、早い話が「活」の状態在庫を持ち、両方の機会損失を大幅に削減し、「需要」と「供給」をマッチさせるということである。

◇「2ビン法」：2ビン法とは平易に言えば、先ず2つのビンを用意し両者ともに在庫で満たす。満たしたところで一旦入荷を停止する。片方のビンから出荷し、そのビンが空になったら、もう一方のビンから出荷すると同時に、空になったビンへ供給を始め、供給が常時可能な状態に保つ方法。直観的に見れば判る簡便な在庫管理手法である。実際に鮮魚介類の場合は、ビンではなく、プールや網の中と置換えてイメージしてください。

◇「獲る定置網」から「留置く定置網」への弾力的な転換

「定置網は漁獲の手法の一つである」漁業者のみならず、誰もがそう思っている当たり前のこと。しかしながら「定置網は在庫の一つの手段である」と思っている人は、ほぼいない。それでも、実際意図はしていないのであろうが、現実には「定置網は在庫の一つの手段となっている」。時化や予め決められた休漁日には出荷されずに「活」の状態在庫されているのである。給餌しなくとも、1週間程度は「活」の状態はキープされ得るのであろう。近年、気象予報は格段に精度が上がり、1週間程度先までであれば、予報は「確実」に的中するようになってきた。そこで、逆発想的かつ積極的に、在庫場所として定置網を活用することを提案する。定置網で漁獲されたものを魚種別・サイズ別に仕分けし、隣の定置網に留置き、他の漁法で漁獲されたものも「活」であれば、定置網に一旦留置きオーダーがあってから出荷するように、また、巻き網はある程度まで網を絞って、そのまま定置網として留置きできないのであろうか。受給のマッチングに資すると図られる。

そして、時化を認識しているのであれば、予め陸の「プール」に「需要」を賄える分のみ移動させ、その間の「需要」と「供給」のミスマッチを防止する。 次回に続く。